



清新二中だより

本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

新たなスタート 春の匂い

校長 白石 亨

暖かな風が流れ、サクラの花が咲く春。春先は、やはり気持ちが弾んでくる。

ちょうど昨年今の頃の春、自宅マンションのエレベーターで新入学の小学校1年生と乗り合わせた。顔なじみの男の子が、真新しいランドセルを背負っていた。肩ごしに自分のランドセルをながめ、嬉しそうに、またちょっぴり誇らしげにしている笑顔があった。ランドセルからは真新しい革の匂いがした。エレベーターには新品のランドセルの匂いが立ちこめ、自分まで気分が弾んできた。

新品のランドセルに喜ぶ1年生がいる。その一方、長年お世話になったランドセルにサヨナラをする児童もいる。先月、地域の小学校の卒業式に出席させていただいた。担任の先生から呼名されると、6年の卒業生は大きな声で「はい」と返事をし、壇上で校長先生から卒業証書をいただいた。その所作がとても凛々しかった。特に保護者席に向かって述べた「門出の言葉」には、卒業生一人ひとりの6年間の思いが込められていた。学校・家庭・地域からの愛情をたっぷり受け、やさしく伸び伸びと育った小学校最上級生の顔があった。

壇上での6年生の姿を見ていると、ちょうど春先、サナギから脱皮をして、大きな羽を広げて成虫へと変態する蝶々の姿が目に見えてきた。6年生も小さくなったランドセルを脱ぎ置き、中学生へと大きく成長するのだと思う。ランドセルに代わって清新二中の真新しい制服（標準服）に身を包むのだ。パリッとしたYシャツに袖を通し、新しいブレザーを身にまとうと、下ろしたての心地よい制服の香りが漂ったことであろう。新しく始まる中学校生活を予感させる匂いだ。

そして新入生を迎え入れる本校の在校生にも・・・。

新年度早々、どの生徒にも新しい教科書が配本される。やはり新品の教科書は気持ちがいい。まだ手垢の付かない教科書は四角がピンとしている。そして、いかにも「私新品です」と自己主張してくる。特に昔の教科書はそうだった。今のようにインクの品質がよくなかったのか、ぶ厚い国語の教科書をパラパラとめくると刷り立てのインクの香りがほんのりと漂ってきた。この匂いが何とも言えず心地よい。これから始まる新しい学校生活への期待を膨らませてくれた匂いだ。

春先は、長い冬を耐えてきた生物が、今か今かと一斉に生命の息吹を醸し出す。植物は新芽を芽吹き、花を咲かせ、若葉も爽やかな匂いを放ち出す。そして春先は、自然界のみならず、身近にある品々までもが春の匂いで満ちている。新しい生活のスタートを新しい香りが応援してくれている。

新年度を迎え、本校の生徒一人ひとりも新しい学校生活の息吹を感じ取ってもらいたい。新しい黒板、新しい机、新しい教室。特に1年生にとっては見るもの、聞くものすべてが新しい。教室には新鮮な気運が満ちている。そして何よりも、新しい級友や新しい先生との出逢いがある。

今年度、本校の教職員も6名が入れ替わった。着任した教職員も見るもの聞くものすべてが新しい。この新鮮な感覚を大切にもらいたい。そして新たな息吹を清新二中にそそぎ込んでもらいたい。春先の新鮮な息吹が、人それぞれをひとまわり成長させるとともに、組織としても一段大きく飛躍できる契機になってくる。生徒228名、教職員35名の清新二中の令和6年度が始まっていく。生徒同様に初心を忘れずに、清新第二中学校の教育活動が一層充実できるように努めたい。